

ふだん着の鎌倉

鎌倉にかすかに残る古き通りの名前 頼朝がつくったまち・鎌倉

2009.?



携帯サイトでもご覧いただけます
<http://itoday.jp/>

▶ PCの方は <http://kamakuratoday.com/>

ちは繁栄したのではないのでしょうか。
そのような頼朝の道ですが、現在もその名を残しているところがあります。そうです「若宮大路」です。鶴岡八幡宮から海に向かってまっすぐにのびる道、頼朝の時代はこの道を中心にまちづくりを進めていったようです。さてその他は…? 「小町大路」をご存じですか? 宝戒寺から妙隆寺、本覚寺へと続く若宮大路の東側に平行してはしる道です。

日本人というのはなぜか「三」という数字が好ましく、いろいろな分野の代表を「三」という数で表すことが多くあるようです。「日本三景」「三大夜景」はたまた食べ物分野からは「三大珍味」、鎌倉に関係があるところでは「三大大仏」、高度成長期にいわれた「三種の神器」や、それに続く近年の「新三種の神器」、有り難くないところでは「昭和の三大台風」等々挙げればきりがありません。とここまで考えてふと思ったのは、この「三」好きの傾向は日本人だけでなく世界の人々にいえるようだという事です。「世界三大河川」「世界三大夜景」…たくさんありました。ちなみに今まででできた「三」をすべて言い当てられた人は立派な雑学王! わからなかった人は文末に答えを載せてあるのでクイズ感覚で暇つぶしにどうぞ。

ど残っていない…。残念なことです
その街並みという点でみると、当時の都市計画をうかがい知ることが出来ます。京都の街は基盤の目状、道が東西・南北に通っています。今でもそれが生活にとけ込み、そのおかげで京都のまちの住所表記は二つ存在しています。たとえば京都府庁の正式な住所は「上京区藪之内町」ですが、一般的には「下立売通と新町通の交差点から西に入ったところ」という意味の「上京区下立売通新町西入」と表され、府庁で発行しているパンフなどにもそのように書かれています。

さてさて、いきなり冒頭から話がだいぶそれてしまいましたが、「三」の中に「三丁都」というのがあります。言わずと知れた京都・奈良・鎌倉ですが、残念ながら現在のところ鎌倉だけ世界遺産に登録されていません。京都は一九九四年、奈良は一九九八年に登録されており、鎌倉だけは遅れをとってしまっただけがあります。鎌倉は武家の街であったため煌びやかで雅な雰囲気を持たない質素な文化であったこと、一五〇年ほどで滅亡してしまっただけ街並みがそれほど残っていない…。残念なことです

一方鎌倉を見ると、現在の鎌倉の街は源頼朝が進めた都市計画がベースになっているようです。頼朝は始めに八幡宮を材木座（現在元八幡のあるあたり）から現在の場所に遷し、それぞれの地域(町)に名前を付け、道の整備を進めていったといわれています。「吾妻鏡」の記述によると、頼朝は妻政子の懐妊という理由で道を造ったり、讒言(ざんげん)の罰として梶原景時(げんじ)に造らせたり、どつやら道路整備が大好き(?) だったようです。しかしそれによって多くの人が集まって賑わい鎌倉のま

ど残っていない…。残念なことです
その街並みという点でみると、当時の都市計画をうかがい知ることが出来ます。京都の街は基盤の目状、道が東西・南北に通っています。今でもそれが生活にとけ込み、そのおかげで京都のまちの住所表記は二つ存在しています。たとえば京都府庁の正式な住所は「上京区藪之内町」ですが、一般的には「下立売通と新町通の交差点から西に入ったところ」という意味の「上京区下立売通新町西入」と表され、府庁で発行しているパンフなどにもそのように書かれています。



おそらく生活に必要なくなってしまうのが消えてしまった最大の原因でしょう。せっかく古都だといのに残念なことです。由比ガ浜二丁目というところのあたりを指すのかピンとこないことがありますが、通りの名前を使って「今小路と長谷小路の交わる」というと前述の京都のようにわかりやすいですね。このあたりは次号に「近い将来こんな鎌倉はいかがが?」という内容でお届けしたいと思います。初の連続ものでも次号は最終回。ご期待ください!

【日本三景】松島、天橋立、安芸の宮島 【日本三大夜墨】函館、神戸、長崎 【三大珍味】からすみ、このわた、うにまたはふぐの卵巣の粕漬け 【日本三大大仏】奈良大仏、鎌倉大仏、三番目は諸説あり 【三種の神器】白黒アレバ、洗濯機、冷蔵庫 【新三種の神器】デジタルカメラ、DVDレコーダー、薄型テレビ 【昭和の三大台風】室戸台風、枕崎台風、伊勢湾台風 【世界三大河川】アマゾン川、ナイル川、ミシシッピ川 または長江 【世界三大夜景】ナポリ、函館、香港